



日本通運健康保険組合 健康管理センター 認定産業医
医学博士・順天堂医院代謝内分泌内科非常勤助教
医療法人社団めぐみ会 自由が丘メディカルプラザ院長
日本内科学会認定内科医・日本糖尿病学会専門医
日本糖尿病協会療養指導医
日本医師会認定産業医・認定健康スポーツ医

経歴 岩手医科大学卒
順天堂大学大学院 医学研究科(博士課程) 卒
専門領域 糖尿病・代謝内分泌学



こんな症状はありませんか？

なかなか治らない咳、痰が多い、胸痛、息切れ、声のかすれ、呼吸困難、疲れやすい、食欲不振、体重減少…。これらは肺がんの症状ですが、かぜなどの病気と区別が付きにくいいため、がんを見過ごす原因となっています。

このような症状に不安を感じたときは、医療機関の呼吸器科で検査を受け、早めの診断を受けることが大切です。日本対がん協会では病巣が2cm以下で発見されれば手術が可能、1cm以下なら生存率はさらに高いとしています。

肺がんの主な要因

喫煙、受動喫煙

肺がんの主な症状

早期は無症状。進行すると治りにくい咳、血痰、胸痛、息切れ



肺がんの検査

胸部X線検査

X線撮影で肺全体を見る

検診で行われる基本的な検査です。胸部にX線を照射して撮影し、がんの有無を調べます。ただし、がんが骨や

血管と重なって映るような場所にあると、がんを認識できないことがあります。



喀痰細胞診

痰で肺の入口のがんを調べる

主に喫煙者が対象となる基本的な検査です。痰を採取してがん細胞の有無を調べ、肺の入口の太い気管支にできるがんを見つけるのに有効です。喫煙者などのリスクの高い人は、胸部X線検査などとあわせて受けましょう。



胸部CT検査

より小さながんを見つける

X線を人体に360度方向から照射し、コンピュータを使って胸部を輪切りにした状態の画像(断層画像)にします。胸部X線検査よりも精度が高く、骨や血管に隠れた部分にあるがんや、小さながんも発見できますが、被ばく量が多いなどのリスクもあります。



コラム

タバコ以外の原因の肺がんの増加に要注意を！

肺がんの最大の原因といえば、当然タバコです。ところが最近では、タバコを吸わないのに肺がんになるケースが増えていきます。肺がんには、喫煙の影響が非常に大きいタイプ(扁平上皮がんなど)と、影響はあるもののそれほど大きくないタイプ(肺腺がんなど)とがあります。喫煙による肺がんの発症リスクは、タバコを吸わない人と比較して男性で4~5倍、女性で3倍程度とされています。ところが、扁平上皮がんに限定すると、男女ともにリスクは10倍以上。それに対して肺腺がんでは、男性で2~2.5倍、女性で1.5倍程度。同じ肺がんでも、タイプによって喫煙の影響には大きな差があります。男性喫煙者の減少により、扁平上皮がんは減少傾向にあります。しかし、反対に肺腺がんは増加し、すでに男性の肺がんの40%、女性の70%に及んでいます。つまり、非喫煙者なのに肺がん(肺腺がん)というケースが増加しています。

近年、原因に「女性ホルモン」と「汚染大気」の2つが有力視されています。①女性ホルモン(エストロゲン)については、

月経期間の長い(初潮が早く、閉経が遅い)女性や、エストロゲン補充療法を受けた女性に、肺がんの発症率が高いことが以前から報告されていました。このことからエストロゲンの影響についての研究が進められ、現在ではエストロゲンの体内合成にかかわる遺伝子と、肺がん(特に肺腺がん)との関係や発症の仕組みが解明されつつあります。②私たちは空気中にある様々な有害物質(細菌やウイルス、排気ガス、タバコの煙、工場の煙など)を毎日吸い込んでいます。肺の末端にある肺胞では、白血球の一種が有害物質を感知し、除去しています。この防御システムによって、肺胞の機能が守られています。しかし、有害物質を取り除く際に発生する活性酸素が大量の場合は正常な細胞まで傷つけてしまい、肺胞付近の細胞にがんが発生するリスクが高くなるのです。大都市や工業化の進んだ都市に、肺腺がんの発症率が高いとされるのは、空気中の有害物質に触れる機会が多いからです。

